

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラムマップ

奈良大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は建学の精神にもとづき、わが国屈指の歴史と文化に恵まれた奈良の地を活かし、学生ひとり一人の主体的な学びを重視した教育を行う。それを通じて修得した知識と経験をもとに、社会の一員として伝統への理解と現代感覚を兼ね備え、生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材の育成を目的としている。その実現のために、本学は所定の教育課程を修め、つぎに掲げる6つの能力を身につけた者に、学士の学位を授与する。 1. 知識・技能の理解と活用、2. 問題発見・解決力、3. 多様性の理解、4. コミュニケーション能力、5. 自立的で意欲的な態度、6. 倫理観・規範性	
文 学 部	
1. 知識・技能の理解と活用	幅広く語学・教養科目を履修して柔軟な思考力を養うとともに、人文科学の理念にもとづいて、各学科の基礎から専門へと深化する学位プログラムにしたがって専門的な知識や技能を修得し、それらを応用する能力を身につけている。生活のさまざまな場面で実際に起こる問題に対して、自らのおかれた立場を認識したうえで、それらの知識や技能を柔軟に再構成して活用することができる。
2. 問題発見・解決力	人文科学の諸領域の学修によって得られた的確な思考力や判断力によって情報の収集や分析を行い、問題を正しく把握し認識する能力を身につけている。社会のさまざまな状況に応じて、収集した情報を自分のみならず、他人とも共有することで、共感的理解や建設的批判を導きつつ、幅広い観点から解決に至る考えや手段を構想して、問題の解決に向けて前進することができる。
3. 多様性の理解	幅広い視野をもち、自分の考えと異なるさまざまな意見や考えがあることがわかる能力を身につけている。よりよい社会の実現をめざして、自分が属する集団や地域のみならず、その集団や地域を越えた多様な人々と協働し、自分の属する集団や地域の特性を理解し、他の人々にわかりやすく示すとともに、彼らのもつ歴史や文化を尊重しながら行動することができる。
4. コミュニケーション能力	会話や文章を通じて、他人に対して自分の立場・気持ち・意見をわかりやすく伝え、また相手の真意を理解する能力を身につけている。さまざまな手段によって他人と交流できるようになった情報化社会において、時と場合に応じて適切なコミュニケーション・メディアを選択し、相手の立場・気持ち・意見に配慮しながら、自分の立場・気持ち・意見を望ましい言葉によって表すことができる。
5. 自立的で意欲的な態度	社会生活のさまざまな場面において、人文科学の諸領域の学修で培った先人の知恵や人々の営み、地域の文化・特性などの理解や、自分自身の経験を生かしながら、立場をわきまえ、意欲的かつ着実に行動できる能力を身につけている。社会に横たわるさまざまな課題・問題に対して傍観することなく、自分の果たすべき役割と責任を明確にしたうえで、主体的・能動的に行動することができる。
6. 倫理観・規範性	建学の精神にもとづいて、善悪を正しく見極め、社会のルールを遵守したうえで、自分の進むべき方向や、他人との相互理解を深める能力を身につけている。自分自身が地域の文化や伝統に育まれたものであることを知り、地域社会を構成する一員であるという自覚と責任をもって行動し、独断や偏見にもとづく主張や態度に対しては毅然とした態度で臨むことができる。

奈良大学通信教育部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

奈良大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、次の通り教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

教 育 内 容							学修方法	学修成果 評価方法	
文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。									
【教養科目】	【専門科目】						【自由選択 科目】		
	〈概論〉	〈専門に 関する技法〉	〈講義〉	〈専門の実 践的科目〉	〈演習〉	〈卒業論文〉			
〈主題科目〉 これからの時代を主 体的に生きていくのに 必要な、基本的な諸問 題を取り扱う。数多く の主題科目の中から、 まとまりを持って自分 なりの「主題」を見つ けて学んでもらうため に、「人間」「国際関係」 「環境」という３つの 分野を設定し、対応す るコア科目群を配置し ている。各コア科目群 は、互いに関連しつづ とも異なる視点や発想法 による科目群で構成さ れている。	歴史学、文 化財学にお ける各分野（史 科学・考古学・ 美術史・東洋 史・西洋史）の 学問領域を概 観し、従来の 研究成果にも とづいた基礎 的かつ必須の 事項を学び、 研究動向の基 礎を身につけ る。 史料学概論、 考古学概論、 美術史概論、 東洋史概論、 西洋史概論	先行研究と して重要な論 文・関係史料 の講読を通し て、専門用語 （術語）を理 解し、さまざ まな史料に関 する基礎的知 識・扱い方・ 分析方法を修 得する。さら に、学術論文 の構造や要点 を理解する力、 史料を調査・ 分析できる力 を身につける。	史学、文化 財学、国文学、 地理学の各分 野における 様々な研究視 野にもとづく 専門的知識を 学び、最新の 研究動向と研 究手法を修得 する。自らの 研究の方向と 課題を発見し 、解決の力を身 につけること で、研究の深 化をめざす。 日本史特殊講 義、考古学特 殊講義、美術 史特殊講義、 西洋史特殊講 義、東洋史特 殊講義、言語 伝承論、江戸 文学論、歴史 文学論、書誌 学、平安文学 論、観光論、 シルクロード 学、民俗学、 仏教考古学、 建築史	奈良の立地 を生かした実 地踏査で文化 領域を総合的 に捉える能力 を養う。また、 さまざまな史 料の実物やレ プリカに触れ、 それを通して、 実物史料の扱 い方や、実物 やレプリカだ からこそ見え る歴史の世界 の分析手法を 修得する。 奈良文化論、 神話伝承論、 歴史地理学、 古文書学、文 化財修復学	自らの卒業 論文のテーマ を見つける。 また、研究史 を踏まえ、課 題解決に向け て、口頭や文 章による報告 を重ねるとも に、自らの 考えをわかり やすく伝える 能力を養う。 さらに討論 を通して、他 者と建設的に 議論を行う力 を身につける。 史学演習、文 化財学演習	自らのテー マに関する先 行研究の成果 と課題をきち んと整理し、 地道かつ広範 な調査にもと づいて、課題 解決に向けて 筋道を立てる。 さらに、適切 な計画性のも と、主体的に 研究成果をま とめる。 卒業論文	教 養 科 目、 専門科目を補 完し、幅広い 学問分野が学 修できるよう 編成した科目 を開講してい る。 現代文学論、 自然地理学、 地理情報シス テム、人文地 理学、気候学、 心理学基礎、 社会学基礎、 経営学基礎、 臨床心理学、 情報処理、文 化人類学	通信教育部で は、テキスト科 目（印刷教材等 による授業）、 およびスクー リング科目（面 接授業）により学 修を行う。 テキスト科目 では、提出のあ ったレポート（報 告課題）を担当 教員が添削指導 を行う。添削指 導は、８つの評 価項目（設題意 図の把握度、テ キストの内容理解 度、論点の明 確さ、論理の一 貫性、着眼点、 独創性、文章構 成力、文字や表 現の正確さ）に より評価を行い、 総合評価として 合格又は再提出 の判定を行う。 レポート合格 者には科目修得 試験の受験資格 を与える。科目 修得試験は論文 形式で行い、当該 科目の最終試験 として評価を行 う。 スクーリング 科目では、学生 は担当教員と対 面による集中講 義授業の受講に より、各学問分 野の学修を行う。 テキスト科目 では学修が困難 である演習科目 やすぐれた歴史 環境にふれる現 地踏査により学 生が主体的かつ 能動的に学修を 行う。	学修成果の評 価方法は、次の とおりとする。 テキスト科目 では、提出のあ ったレポート（報 告課題）を担当 教員が添削指導 を行う。添削指 導は、８つの評 価項目（設題意 図の把握度、テ キストの内容理解 度、論点の明 確さ、論理の一 貫性、着眼点、 独創性、文章構 成力、文字や表 現の正確さ）に より評価を行い、 総合評価として 合格又は再提出 の判定を行う。 レポート合格 者には科目修得 試験の受験資格 を与える。科目 修得試験は論文 形式で行い、当該 科目の最終試験 として評価を行 う。 スクーリング 科目では、当該 科目の到達目標 への達成度を、 筆記試験、レポ ート提出、口頭発 表、授業への参 加態度のいずれ か、あるいはそ れらを総合して 評価を行う。 卒業論文では、 各自の研究テー マに基づき定め た卒業論文指導 教員が、①卒業 論文計画書、② 卒業論文草稿、 ③面接指導と段 階的に論文指導 を行い、提出さ れる卒業論文を 当該課程での総 括的な学修成果 として、学位授 与にふさわしい かどうかを評価 する。
人間論、国際関係論、 法学概論、環境論	史学講読、文 化財学講読								
〈外国語科目〉 外国語の習得は、国 際化時代に適応し、学 問を深めるための基礎 となる。外国語科目は、 英語と中国語から自由 に選択することができる。									
英語、中国語									
〈健康・スポーツ科目〉 実技科目の「スポー ツ実技」、講義科目の 「健康論」で構成され ている。「スポーツ実 技」は身体運動の理解 を深め、スポーツを段 階的に学び、継続化す る力を養うことをめざ している。「健康論」は、 健康について生理学的 に理解し、生涯を通じ て自らの健康を把握、 改善する力を身につけ ることを目的としてい る。									
スポーツ実技、健康論									

奈良大学通信教育部の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

奈良大学では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育課程を受けるための条件として、次に示す知識、技能、能力、態度、興味、意欲等を有する人を受け入れる。

- A P 1（知識と技能）：高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人
- A P 2（思考力・判断力と表現力）：人や社会について、知識や情報をもとに筋道を立てて自分の考えをまとめ、論理的・総合的に判断し、それを文章や口頭で表現できる人
- A P 3（主体性と協働的態度）：社会的な活動に主体的に、かつ、他者とコミュニケーションをとりながら協働して取り組むことのできる人
- A P 4（探究心と応用力）：人類の歴史や社会、人間性を探究する本学での学びに興味を持ち、その学びを社会で活用しようとする意欲を有する人

なお、本学では、受け入れを多面的・総合的に評価するために、上記のアドミッション・ポリシーを各入学制度に応じたかたちで重み付けをし反映させている。

通信教育部入試（A P 2、A P 4の比重が高い）	建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ幅広い年代の人を受け入れる。受け入れの判断については、在宅学習が中心の大学通信教育の学習方法を理解し、学ぶ意思を確認する志望理由書により行う。
----------------------------	---

卒業認定・学位授与の方針と通信教育部授業科目の関連表（カリキュラムマップ）

科目区分		科目名 各科目の到達目標はシラバスを参照してください。	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ○は重視する科目					
			1. 知識・技能の理解と活用	2. 問題発見・解決力	3. 多様性の理解	4. コミュニケーション能力	5. 自立的で意欲的な態度	6. 倫理観・規範性
教養科目	〈主題科目〉	人間論、国際関係論、法学概論、環境論	○	○	○			
	〈外国語科目〉	英語、中国語	○		○	○	○	
	〈健康・スポーツ科目〉	スポーツ実技、健康論	○	○	○	○		
専門科目	〈概論〉	史科学概論、考古学概論、美術史概論、東洋史概論、西洋史概論	○					○
	〈専門に関する技法〉	史学講読、文化財学講読	○	○				
	〈講義〉	日本史特殊講義、考古学特殊講義、美術史特殊講義、西洋史特殊講義、東洋史特殊講義、言語伝承論、江戸文学論、歴史文学論、書誌学、平安文学論、観光論、シルクロード学、民俗学、仏教考古学、建築史	○		○			
	〈専門の実践的科目〉	奈良文化論、神話伝承論、歴史地理学、古文書学、文化財修復学				○	○	
	〈演習〉	史学演習、文化財学演習		○		○	○	○
	〈卒業論文〉	卒業論文	○	○	○			
自由選択科目		現代文学論、自然地理学、地理情報システム、人文地理学、気候学、心理学基礎、社会学基礎、経営学基礎、臨床心理学、情報処理、文化人類学	○		○			○